

## 私の1枚～研修を振り返って～

【宇都宮市立上河内西小学校 田代 幸恵】

### 「いろいろな人たちとの出会いから思うこと」

この研修を通して、いろいろな施設を訪ね、様々な切り口で見学することで、多面的・多角的な視点で物事を考えるきっかけとなりました。

特に、私が心に残っていることは、ブラジル人学校での授業参観でした。以前から外国籍や外国にルーツをもつ児童・生徒は、どのような教育環境の中で、どのようにアイデンティティを築いているのか関心がありました。

授業参観では、小学生の学級で日本文化や「福笑い」を紹介しました。好奇心をもって話を聞く姿やゲームのおもしろさを共有し合う様子は、日本の学校の子どもたちと全く同じでした。それは言うまでもなく当然のことでしょう。

これまで当たり前と思っていた部分をより深く知ること、「本当にそうなのか。」と疑問をもったり、「自分ならどうするか。」ということをも具体的に考えたりするようになりました。SDGsについても、その中の1つに特化して行うというよ

【つくば市立並木小学校 西村 凌】

### 「SDGsの具体的な実践を体験して」

「SDGsを意識しよう」とメディアで流れていた、我々教員は学校で「SDGsは大切」と子供たちに教えたりしているが、正直SDGsとはどのようなもので、何を行うのかということがはっきりしていない先生が多いのではないだろうか。私は今回の研修にて様々なSDGsの具体的な実践を知ったり、体験したりすることができた。

今でも心に残っている体験は、茨城NPOセンター・コモンズでシェアハウスの改修工事を手伝ったことである。鬼怒川の決壊によって被災した家をシェアハウスにする工事で、断熱材を入れたり、壁にくぎを打ったりすることができた。SDGsというと、発展途上国の人々に対して「何かをする」といったイメージが持ちやすいが、日本に住んでいる人にとっても必要なことであり、元々あったものが形を変えて役に立つということがわかった。

このように、SDGsには、様々な形があること

4 質の高い教育を  
みんなに



り、自分の生活の中の言動と17の項目を照らし合わせ、自分にできる一番よい方法を自然に取り入れていくことが重要だと思いました。

今後、教師としても、一人の人間としても、共存・共生のために、SDGsをヒントとして実践を積み重ねていきたいと思えます。

10 人や国の不平等を  
なくそう



や日本や日本人にとっても他人事なのではなく、地球に住む一員として目指すものだということを知ることができた。教員は、常に「教えること」を求められる職業である。この研修は、私にとってSDGsについてあやふやだったものが自信をもって子供たちに教えることができる機会となった。

## 【宇都宮市立泉が丘中学校 仙波 千浩】

12 つくる責任  
つかう責任



### 「子供たちに伝えたいこと」

第1回フィールドワーク2日目に行った見学先ドンカメの社長小久保さんの写真です。栃木県芳賀町、市貝町で出た給食の残食を肥料に作り替え、農業に使用し、また食べ物となって子供たちの元に戻る仕組みを考案し、実践しているそうです。もしこの仕組みがもっと広がればたくさんの子供たちが食べ物を大切に、フードロスについて考えるようになるのではと思いました。また、東ティモールにもゴミの分別や稲作の技術を伝えるなど海外でも活躍されています。これらの小久保さんの取り組みから「働く」ということについて考えさせられました。

今、私の担任している中学2年生では、職場体験学習などを通し、「働く」ということについて考えています。なので、私は小久保さんから学んだことを道徳の授業の中で子供たちに伝える予定です。はじめは周りから反対されても、



「一緒にやりましょう」という姿勢で取り組み続けたこと、持っている技術を海外にも広めたこと…お金のためだけではない「働く」という姿勢から、子供たちには「将来どのように社会とかかわっていくか」をSDGsの視点で考えられるようにしていければと考えています。

## 【つくば国際大学高等学校 岡崎 倫子】

### 「楽しい学びの力で未来の担い手に希望を」

この度の教師国内研修で、ワークショップやフィールドワークに参加し、貴重な経験をさせていただきました。同時に、私自身知らないことが山ほどあることを痛感しました。

かつて異文化交流に重きを置いていた国際教育も、今では地球規模課題の分野にトピックを広げています。研修の中で、情報量が増えるにつれて、「私は一体生徒たちに何を伝えたいのだろう？」と悩みました。

校内の授業実践では、最初は今一つであった生徒の反応にも、徐々に変化が見られました。特に、ワールドキャラバン交流授業では、外国籍講師の方々に熱心に質問する生徒の姿に驚きました。授業が進むにつれて、生徒はより積極的になり、協働作業や交流を経て、多様な社会の在り方を受容する気持ちが芽生え、自分の未来についても考えるようになりました。

今度、常総市にあるブラジル人学校との交流授業

4 質の高い教育を  
みんなに



を予定しています。この研修に参加するまでは、同県内にそのような学校があることを知りませんでした。夏の交流授業の際に、浴衣を着て盆踊りを一緒に踊ったことが印象に残っています。

双方の子どもたちが国籍や言葉の壁を越えて、楽しく学び合い、自分たちの住む社会や未来について共に考える機会になることを願います。



「使い捨てのないものづくり」

「ものづくりに大切なことはなんだと思いますか。」就職試験の面接練習に来た3年生にそう問いました。本校は日本でも有数の歴史ある工業高校です。これまでものづくりとは縁遠い生活を送ってきましたが、本校に赴任してから興味をもつようになりました。私は、ものづくりにとって大切なことは「使い捨てない」ことだと思います。令和は便利な時代で、何でも使い捨てることができます。しかし多くの方は、自分が使い捨てたその製品がどう作られて、どう廃棄されるのか知りません。私は研修で、人が住まなくなった家の改修に参加しました。生ごみを堆肥に再生する企業を見学しました。どちらも「使い捨てない」ものづくりを体感する貴重な経験となりました。一日一日の掃除を怠ると、数か月後には部屋の床が見えなくなるように、一人一人の使い捨てによって、数年後には美しい地球が見られなくなるかもしれません。反対に、毎日



少しずつ食べる量を減らしていくと、数か月後に理想の体型になるように、毎日少しずつ自分にできることを実践することで、変わる未来があります。教員は、次の世代を育てる職業です。生徒とともに未来の担い手となれるよう、これからも学び続けます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

